

## （1）大学・学科の設置理念

### ①大学

関東学院大学は、明治17（1884）年に横浜山手に創立された「横浜バプテスト神学校」（のちの日本バプテスト神学校）を源流として、今日に至る130年の伝統の上に立っている。本学の教育理念は、「キリスト教に基づく学校教育を行うこと」を目的とし、キリスト教に基づく人格の陶冶を旨に、教育基本法に則り、学術の理論及び応用を教授することである。横浜バプテスト神学校初代校長A. A. ベンネットの墓碑銘“He lived to serve”と、関東学院初代学院長坂田祐によって選定された校訓「人になれ 奉仕せよ」は、人間であることを深く自覚し、人間らしい人間になることを教育の基本命題にしたものであり、人間らしい人間とは、他者、隣人、弱者に愛をもって奉仕する者になることを説いている。本学院の教育理念を示すこの校訓は、今日の日本の社会、とりわけ、教育の現場が抱えている課題に取り組む際の基本姿勢を、十分に担い得るものと確信している。

### ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

理工学部理工学科は、2013年度に生命学系、数物学系、化学学系、機械学系、電気学系、情報学系、土木学系の7学系の教育・研究体制を整え設置され、科学技術に携わるエンジニアとしての清廉さ、実直さ、公共心を備え、社会や人類、地域の幸福と発展に実質的に貢献できる人材を育成することを使命としてきた。

設置から10年が経過し、理工学にかかわるさまざまな分野で技術革新が起り、高等教育に対する産業界からのニーズも変化してきた。これに関連し、化学学系においてはこれまで応用化学分野を包括的に教育してきたが、材料・表面工学研究所との連携を取りつつ大学院教育を充実させてきており、また、半導体デバイスなどの最先端素材に関わる表面工学の分野について独立した教育体制へのニーズが高まり、化学学系から独立する形で新たに表面工学学系を立ち上げることとなった。また、電気学系においては、設立当初より電気・電子コースと健康スポーツ計測コースの2コース制としていたが、人間計測への関心が高まる中、健康スポーツ計測コースのカリキュラムも健康データ科学系、人間情報処理系および健康増進支援系へと変遷し、電気・電子コースのカリキュラムと共通する分野が無くなったため、教育単位である学系も分割し、新たに健康学系を立ち上げることとなった。

新設される表面工学学系および健康学系の教職課程においても理工学科既設学系同様、学位プログラム、教職課程を含むすべての教育機会を通じて「協調性やコミュニケーション能力、公共心やリーダーシップといった総合的な人間力を備え、理学と工学の双方の専門知識・共通知識、技能を備えた教員養成」を理念とする。

## （2）教員養成の目標・計画

### ①大学

本学の建学の精神は、キリスト教に基づく校訓「人になれ 奉仕せよ」に示されるように、「人」であることを深く自覚し、他者・隣人に愛を持って奉仕する者となることを説くもので、現代社会において最も大切なものを求め続けることである。その精神は教員養成に対する理念・構想にも通じ、教員として、或いは教育に携わる者として揺るぎない価値観のひとつとして十分に耐え得るものと確信している。本学では10万人を超える卒業生が各界で活躍しており、教育界へも数多くの人材を輩出している。そうした大学としての社会的役割に加え、課程認定大学に求められる役割も鑑みて、教員養成の理念を実現し、本学が目指す教師像「愛と奉仕の精神を尊び、その理念に裏打ちされた幅広い教養と高度な専門知識・技能を合わせ持つ教員」を養成するために全学的な取り組みを行っている。

本学は幼稚園、小学校、中学校、高等学校、栄養各教諭の教職課程を有し、複数の学科間の共同により課程を運営していることから、各課程の中心となり体系的なカリキュラムを担保する組織として「教職支援センター」を設置している。センターには運営委員会を置き、本学の教職課程の水準を維持・向上させていく仕組みを確立するとともに、人格形成と教員養成の目標を明確に示した「KGU教職課程スタンダード」を全学的に策定し、実践力のある教員養成のためのカリキュラム充実に力を注いでいる。

また、地域や学校、教育委員会との連携に加え、本学の系列校や同窓会教員部会（教職に就いている卒業生の会）の協力も得て、教育実習校との提携、実習指導体制の充実を図り、地域社会と一体となって教員を養成することを目指している。教職課程の担当である「教職担当専任教員」は各学部教授会にも所属しており、各学部の教務主任、教務委員、また教職課程に関する科目を担当する兼任教員とともに、教職課程と学位プログラムとの連携に努め、教職課程に所属する学生の指導体制を確立している。

これらの全学的体制に基づき、質の高い教員養成を通して、我が国の学校教育の発展に貢献したいと考えている。

## ②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

### a) 表面工学学系

表面工学学系における教職課程は、理工学科としての卒業要件のほかに、表面工学学系が指定する履修規程と教職課程の履修規程に則り学修を進めてゆく。学位プログラムの履修を通して、理学、工学、情報の専門基礎力が身に付くよう配慮されているほか、表面工学学系以外の科目について最大16単位までの履修を認めており、教職課程の学生においては免許教科に関連する知識をさらに充実させることができる。教職課程の学生の各学年における目標は以下のとおりである。

<1年次> 必修科目である「キリスト教学」「フレッシュャーズ 세미나」等の教養科目（導入科目）の履修を通して、教員としての倫理観や公共心を醸成し、理工系学生としての常識、姿勢を学ぶことで教職に関する科目、教科に関する専門的事項を学ぶ基本姿勢を身に付ける。また、学位プログラムの必修科目である「理工学概論」「情報基礎及び演習Ⅰ」「フレッシュャーズプロジェクト」の履修を通して理学・工学の共通の基礎知識を修得する。

<2年次> 教職関連科目の履修を通して、教員に求められる教職の知識や態度を養うと同時に、表面工学学系が定めた履修システムに則り、学位プログラムとしての専門科目と教職課程の教科に関する科目（表面工学Ⅰ、表面工学Ⅱなど）の履修を通して、免許教科に関連する専門的な知識を身に付ける。

<3年次> 教職に関する科目および教科に関する科目（表面工学実験など）の履修を通して次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身に付ける。また学位プログラムにおいては他学系科目の履修システムを利用して、免許教科の更なる専門性の充実を図る。また、「インターンシップ」や「ソーシャルサービス」を通じて就業観を養い、他者を思いやる心を育てる。

<4年次> 3年次までに培った知識をもとに教育実習に臨む。実習を通して自己の課題を自覚し、教職実践演習等によって不足した知識、技能を補う。

### b) 健康学系

健康学系における教職課程は、理工学科としての卒業要件のほかに、健康学系が指定する履修規程と教職課程の履修規程に則り学修を進めてゆく。学位プログラムの履修を通して、理学、工学、情報の専門基礎力が身に付くよう配慮されているほか、健康学系以外の科目について、最大16単位までの履修を認めており、教職課程の学生においては免許教科に関連する知識をさらに充実させることができる。教職課程の学生の各学年における目標は以下のとおりである。

<1年次> 必修科目である「キリスト教学」「フレッシュャーズ 세미나」等の教養科目（導入科目）の履修を通して、教員としての倫理観や公共心を醸成し、理工系学生としての常識、姿勢を学ぶことで教職に関する科目、教科に関する専門的事項を学ぶ基本姿勢を身に付ける。また、学位プログラムの必修科目である「理工学概論」「情報基礎及び演習Ⅰ」「フレッシュャーズプロジェクト」の履修を通して理学・工学の共通の基礎知識を修得する。

<2年次> 教職関連科目の履修を通して、教員に求められる教職の知識や態度を養うと同時に、教職課程の学生が所属する健康学系が定めた履修システムに則り、学位プログラムとしての専門科目と教職課程の教科に関する科目（健康データ管理学Ⅰ、健康データ管理学Ⅱ）の履修を通して、免許教科に関連する専門的な知識を身に付ける。

<3年次> 教職に関する科目のおよび教科に関する科目（生体データ解析Ⅰ、生体データ解析Ⅱなど）履修を通し

て次年度の教育実習に必要な実践的指導力を身に付ける。また学位プログラムにおいては他学系科目の履修システムを利用して、免許教科の更なる専門性の充実を図る。また、「インターンシップ」や「ソーシャルサービス」を通じて就業観を養い、他者を思いやる心を育てる。

<4年次> 3年次までに培った知識をもとに教育実習に臨む。実習を通して自己の課題を自覚し、教職実践演習等によって不足した知識、技能を補う。

### (3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

#### a) 表面工学学系

工業（高等学校教諭一種免許）

新設する表面工学学系において、「工業（高等学校教諭一種免許）」の教職課程を設置する。

理工学科は、理学・工学の幅広い知識、共通知識・技能を身に付けた、理学・工学双方の専門分野をもつ職業人、技術者の育成を目標としている。このため、表面工学学系の学位プログラムにおいて、工学に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するための科目が多数設置しており、これらの科目の多くを工業の教科に関する専門的事項としても位置づけている。

新設する表面工学学系固有の専門教育を見てみると、先端技術に適用できる新しい材料の合成と評価ができる材料化学や次世代通信技術を支える表面処理技術を学ぶことから、これらの技術を学修した工業の教員を養成することにより、今後ますます需要が増加すると見込まれる半導体デバイスやナノテクノロジーなどの産業界で活躍するグローバルな人材の育成を支えることができると考えることから、表面工学学系に「工業」の教職課程を設置する意義は大きい。

理工学科の学位プログラムにおいても、1年次から「理工学概論」をはじめとする工業に関する基礎的な科目が必修科目として設置されている。2年次以降では、表面工学学系開講の専門基礎科目や専門応用科目により、工業に関連する幅広い知識を身につけさせるよう教育課程を編成している。また、座学、演習、実験（実習）という授業形態を通して、工業教員としての幅広い知識とより実践的な技術、技能を身に付けることができる教育プログラムとしている。さらに、必修科目として職業指導に関する科目を設置し、インターンシップや学外実習といった科目を修めることで、実社会における工業技術の重要性や社会との強い結びつきを教えることができる実践的な教員を養成するよう配慮した教育編成としている。

以上のことから、表面工学学系に「工業（高等学校教諭一種免許）」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

#### b) 健康学系

工業（高等学校教諭一種免許）

新設する健康学系において、「工業（高等学校教諭一種免許）」の教職課程を設置する。

理工学科は、理学・工学の幅広い知識、共通知識・技能を身に付けた、理学・工学双方の専門分野をもつ職業人、技術者の育成を目標としている。このため、健康学系の学位プログラムにおいて、工学に関する基礎的・基本的な知識や技術を習得するための科目が多数設置しており、これらの科目の多くを工業の教科に関する専門的事項としても位置づけている。

健康学系固有の専門教育を見てみると、健康管理のためのセンシング技術や科学的手法によるスポーツ支援技術を学ぶことから、これらの技術を学修した工業の教員を養成することにより、ウェアラブル端末に代表されるような高齢者に限らずすべての人の健康計測技術を学び、さらにアスリートのトレーニング支援に関わる固有の専門的な技術を習得し、健康・福祉分野で社会貢献する技術者の育成を後押しすることができることから、健康学系に「工業」の教職課程を設置する意義は大きい。

理工学科の学位プログラムにおいても、1年次から「理工学概論」をはじめとする工業に関する基礎的な科目が必修科目として設置されている。2年次以降では、健康学系開講の専門基礎科目や専門応用科目により、工業に関連する幅広い知識を身につけさせるよう教育課程を編成している。また、座学、演習、実験（実習）という授業形態を通して、工業教員としての幅広い知識とより実践的な技術、技能を身に付けることができる教育プログラムとしている。さらに、必修科目として職業指導に関する科目を設置し、インターンシップや学外実習といった科目を修めることで、実社会における工業技術の重要性や社会との強い結びつきを教えることができる実践的な教員を養成するよう配

慮した教育編成としている。

以上のことから、健康学系に「工業（高等学校教諭一種免許）」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

組織名称①：	教職支援センター運営委員会
目的①：	<p>教職課程および教員養成課程（教育学部）に関する事項全般を充実させ、円滑、効果的に運営することを目的に、教員養成に関する教育課程の全学的な組織として、次の事項を協議する。</p> <p>(1) 教職課程に関する事項</p> <p>(2) 教員養成課程に関する事項</p> <p>(3) 大学の自己点検・評価の方針に基づき、センターの事業に係る自己点検・評価、改善及び改革に関する事項</p> <p>(4) その他、センターの運営に関する事項</p>
責任者①：	教職支援センター長（教務部長）
構成員（役職・人数）①：	<p>(1) センター長（教務部長） 1名</p> <p>(2) 教育学部長 1名</p> <p>(3) 教職課程主任 1名</p> <p>(4) 教員養成課程主任 1名</p> <p>(5) センター長又は教育学部長が指名する者 若干名</p>
運営方法①：	<p>委員会はセンター長が招集し、原則として委員全員の出席によって議事を行う。協議の結果、その内容を学長へ報告する。</p>

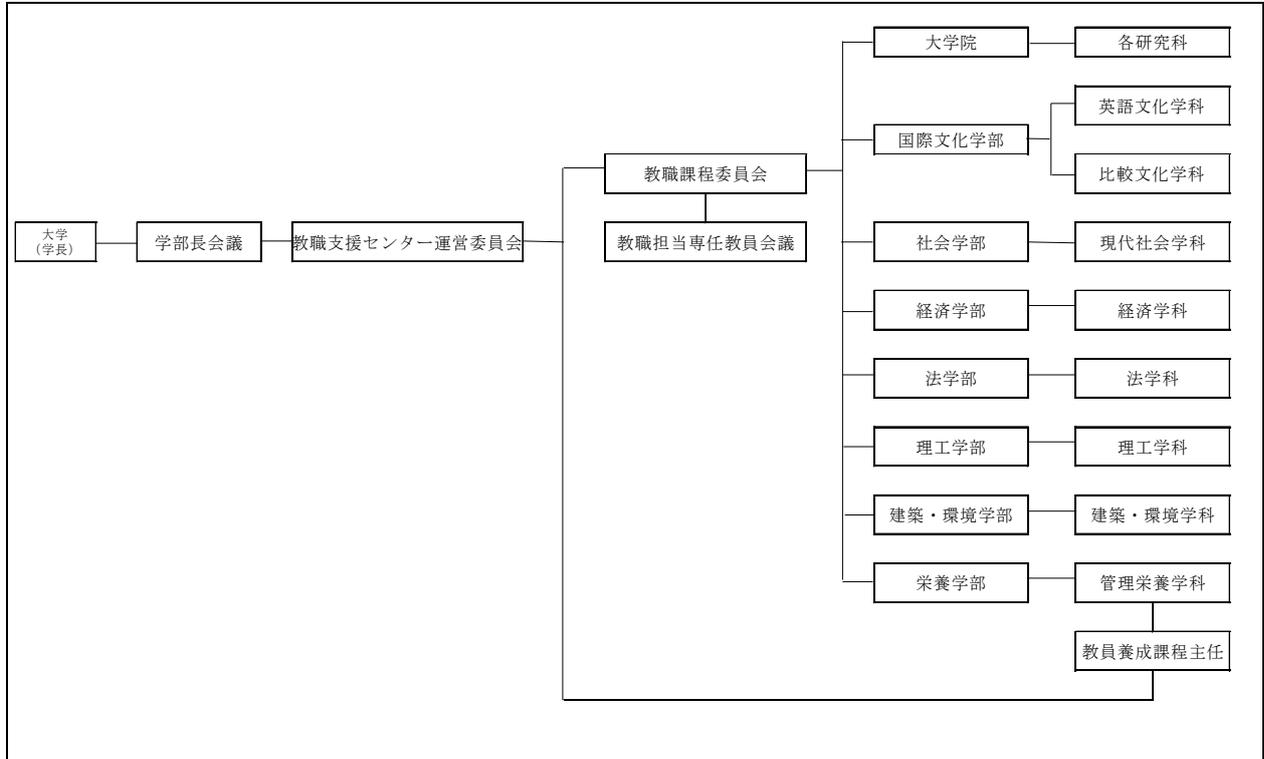
組織名称②：	教職課程委員会
目的②：	<p>教職課程の円滑な運営を図ることを目的に、次の事項を審議する。</p> <p>(1) 開講科目の編成、立案及び担当者に関する事項</p> <p>(2) 非常勤講師の人事に関する事項</p> <p>(3) 履修指導に関する事項</p> <p>(4) 教育実習の指導及び運営に関する事項</p> <p>(5) 科目等履修生に関する事項</p> <p>(6) 教職課程に係る自己点検・評価並びに改善及び改革に関する事項</p> <p>(7) その他、教職課程に関する事項</p>
責任者②：	教職課程委員会委員長（教務部長）
構成員（役職・人数）②：	<p>(1) 教職課程委員会委員長（教務部長）1名</p> <p>(2) 教職課程主任 1名</p> <p>(3) 教職課程専任教員（教職課程主任を除く）3名</p> <p>(4) 国際文化学部、社会学部、経済学部、法学部、理工学部、建築・環境学部及び栄養学部から選出された専任教員各1名</p> <p>(5) 教務部長が指名する者 若干名</p>
運営方法②：	<p>当委員会は、上記「目的」の審議事項を先議するため「教職担当専任教員会議」を設けており、</p>

様式第7号イ

上記の教職専門科目担当の専任教員を構成員としている。

委員会は委員長が招集し、定足数は構成員の過半数とする。審議の結果、その内容を学長へ報告する。また、本学の教員養成に関する教育課程の全学的な内容の場合は、全学組織である教職支援センターの運営委員会を通じて学長へ報告する。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



## II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

### (1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

教育実習事前指導の一環として、神奈川県、横浜市、川崎市のそれぞれの教育委員会の採用担当者に出向いていただき、教員採用事情のみならず教員に求める能力、資質、態度についての講義を受けている。また、初任者研修のビデオなどを見ることにより学生はよりはっきりと現実と向き合うことができる。

### (2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

取組名称： よこはま教育実践ボランティア（横浜市教育委員会）

連携先との調整方法： 横浜市教育委員会事務局教職員育成課との直接連絡

具体的な内容： 学習支援、遠足補助、運動会補助、宿泊体験補助、部活動支援等

取組名称： スクールライフサポーター（神奈川県教育委員会）

連携先との調整方法： 神奈川県教育委員会子供教育支援課小中学校生徒指導グループとの直接連絡

具体的な内容： 授業の学習支援、教職員の教育活動の補助（小・中）等

取組名称： 横浜市立戸塚高校定時制「学びなおし」学生ボランティア

連携先との調整方法： 横浜市立戸塚高校定時制担当者との直接連絡

具体的な内容： 教員のアシスタント（解答用紙丸付け、解答のアドバイス等）

取組名称： 部活動支援学生ボランティア（神奈川県教育委員会）

連携先との調整方法： 神奈川県教育委員会教育局指導部保健体育課学校体育指導グループとの直接連絡

具体的な内容： 部活動に関する指導、部活動での指導計画の企画作成への参画

取組名称： 横浜市部活動指導員（NPO 法人日本スポーツ支援振興協会/横浜市教育委員会）

連携先との調整方法： 本学スポーツ振興課が統括

具体的な内容： 部活動に関する指導全般

取組名称： 横浜市立釜利谷中学校

連携先との調整方法： 本学社会連携センターが調整

具体的な内容： 放課後学習ボランティア

取組名称： 横須賀市立長沢中学校

連携先との調整方法： 横須賀市立長沢中学校担当者との直接連絡

具体的な内容： 学習ボランティア

取組名称： 私学修学支援センター学生ボランティア（一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会）

連携先との調整方法： 一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会担当者との直接連絡

具体的な内容： 学習指導員の補佐及び授業補助、諸活動の補助等

### Ⅲ. 教職指導の状況

年度始めに、学年毎にオリエンテーションを行っており、科目の修得方法など詳細を記載した履修要綱等を用いて履修指導を行なっている。オリエンテーションのほか、教務課の窓口で常駐している職員が質疑に応じるほか、教育実践センター、学生支援室でも履修相談に応じている。また、教員もオフィスアワーを設定し学生の相談に対応している。

教育実習については、近隣校（神奈川県・東京都）において実習を行う学生に対し、訪問指導を行っている。また、遠方の学生については、主に教職担当専任教員がメールや電話で指導・助言を行っている。学部全体として、より充実した指導を行うために可能な限り当該学生のゼミ担当教員も訪問指導を行っており、事情によっては教職担当専任教員ならびに学部選出の教職課程委員が行う場合もある。なお、訪問指導においては、通常授業もしくは研究授業を参観し学習指導上留意すべき点等を指導する。実習校の実習担当教員を交えてアドバイス、意見交換も行う。また、実習の意義・目的を確認し、教育実習における態度等の指導を行うとともに、学生の精神的なケアと実習に対する動機づけのさらなる向上に努めている。教育実習の事前指導としては、教科別、校種別（中・高）に現場の教員を講師として招いている。学生は現職教員の経験に基づき、生徒に対応する際の注意点など細かく指導を受ける。

事後指導としては、各実習校より得たコメントをふまえた上で「教育実習指導2」「教職実践演習」のカリキュラムの一部として指導を行う。実習校種別（中・高）ごとに少人数クラスに分かれ、実習生の体験報告（口頭発表、再現授業、グループ討議に加えて事後指導参加報告の提出）等から教育実習に対する自己評価と反省を行うとともに、教職課程での学びを振り返り、教職に関する継続した探求を促す。これらの指導にあたっては、指導の効果を高めるために「教育実習手帳」および「履修カルテ」を用いる。加えて、個別指導を行い、学生ひとりひとりへの対応を行っている。また、実習後は、「教育実習の実態調査」ならびに「教育実習申し送り表」の提出を求め、実習の実態を把握し、特に指導・支援の必要な学生に対して個別で対応するとともに、教職課程における指導方法の改善や次年度教育実習生の指導のために利用している。さらに、学生が実習を経験してさらに興味を持った教育問題について調査を行い、レポートをまとめ、報告を行う。教育実習が学生の実践力と教育についての理解を増し、精神的成長を促す体験となるよう指導を行っている。

様式第7号ウ

<表面工学学系> (認定課程:認定課程:高一種 工業)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教師として必要な基礎的能力を身に付ける。</p> <p>教職に関する科目では、「教職論(チーム学校を含む)」「教育原理」「教育心理学」等において、教育に関する基礎理論を理解する。</p> <p>学位プログラムにおいては、「フレッシュヤーズ 세미나」等の導入教育科目において、社会的ルールの遵守等を含む倫理的な精神、情報収集の方法やレポートの書き方等、大学での学習に必要なスキルを獲得する。「総合英語(オーラルコミュニケーション)」「情報基礎及び演習Ⅰ」等において、現代社会におけるコミュニケーションの基礎となる学力や情報整理能力を高め、健康スポーツを通じて、チームワーク、他者との協働、コミュニケーション能力を養う。</p> <p>また、「理工学概論」を履修して、所属学系における包括的な知識を養い、高等学校工業担当教諭として必要な基礎的能力を身に付ける。</p>
	後期	<p>各自の専門領域および高等学校の工業についての理解を深める。</p> <p>教職に関する科目では、「学校の制度」において教育の意義や役割を理解し、教師を目指す意欲や目的を明確にする。</p> <p>学位プログラムでは、「分析化学Ⅰ」「無機化学Ⅰ」「有機化学Ⅰ」を学ぶ。その他の選択科目を履修して工業の基礎知識を習得する。また、「フレッシュヤーズプロジェクト」において数名でグループをつくり課題に取り組むことで、チームワークの大切さを理解するとともに、「憲法」を通じて日本国憲法の精神を含む幅広い教養を身につける。「情報基礎及び演習Ⅱ」を履修して、高等学校工業担当教諭に不可欠な専門分野に関する基礎知識をさらに修得する。</p>
2年次	前期	<p>教師として必要な基礎的能力を身に付けるとともに、教職に関する応用力を高める。また、各自の専門領域および各分野に関する一般的知識を身に付けるとともに、選択科目において、工業の専門知識と多面的・多角的視野を身に付ける。</p> <p>教職に関する科目においては、「教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)」、「生徒指導・進路指導の理論と方法」を通して、現在社会に求められている知識・技能や、その探究に必要な姿勢を生徒たちに身に付けさせるための授業の進め方や指導方法を習得する。また、「道徳教育の理論と実践」を学び、道徳や倫理が教育に果たす役割を理解する。</p> <p>学位プログラムでは、分析化学実験等の実験科目が本格的に始まり、レポート作成等を通じて、まとめることや表現することの重要性の理解を深める。表面工学Ⅰで表面工学の基礎を学ぶ。「職業指導1」を通して職業指導(進路指導)の基本理念を理解する。</p>
	後期	<p>教師として必要な基礎的能力と応用力を高める。また、工業とその教育に関する専門的知識をさらに向上させる。専門科目を学び、専門的知識と多面的・多角的視野を向上させる。</p> <p>教職に関する科目においては、「教育の方法と技術」を通して教育の方法を理解し、効果的な指導スキルを身に付ける。また、「教育相談(カウンセリングを含む)」、「特別活動の理論と実践」等を学び、生徒理解と支援の方法を身に付けるとともに、生徒の心情や行動を理解する力を培う。また、ボランティア活動を伴う「教職実地体験(指導を含む)」において、教員になることへの自覚を高める。</p> <p>工業の専門科目を本格的に習得するために実験が多くなり、レポートなどの作成法を習得するとともに、「職業指導2」等の専門科目をを学修し、指導の仕方、各科目の特性を理解する。無機化学実験等を通して実験の習得度を高くする。また、「応用化学演習Ⅰ」で、分析化学、有機化学、無機化学の習得度を向上する。また、「表面工学Ⅱ」で表面工学の応用を、「化学製図」で設計に必要な技能を学ぶ。</p>

3年次	前期	<p>2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力を高める。各科目の専門科目と実験科目が多く設置されているので、各自の興味を伸ばし、学ぶことの面白さへの理解を深める。また、専門科目から、工業が社会に対して多大なる貢献をしていることを、一層理解する。</p> <p>「工業科教育法」において指導案の作成から展開までを具体的に学び、教員としての実践的指導力を身に付ける。種々の教育ボランティア活動を通して、人や社会に対して深い関心と共感的態度を身に付ける。</p> <p>学位プログラムにおける、「表面工学演習」で、物理化学、表面工学の習得度を向上する。さらに、「表面工学実験」「機器分析実験」等を学び、実験手法を習得する。</p>
	後期	<p>2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力をさらに高める。また、インターンシップなどを通して、工業と産業との結びつきを理解する。</p> <p>教職に関する科目として、「教育実習指導1」を通して、教育実習の意義・目的について理解するとともに、教科教育法における模擬授業等を通して、教育実習に向けての授業力を身に付ける。また、種々の教育ボランティア活動を通して、人や社会に対して深い関心と共感的態度を高める。</p> <p>表面工学系の科目として「電気化学」「半導体材料工学」「エレクトロニクス実装工学」「トライボロジー」を学ぶ。また、「応用化学英語Ⅱ」にて、英語論文を読むための単語、文法を学ぶ。</p>
4年次	前期	<p>3年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力・応用力の確認をする。</p> <p>教育実習を通して、これまでに学習したことを学校現場で実際に応用・検証することで、教育の目的や教職の意義等についてより深く理解する。また、実際に教育に携わり、生徒と関わる中で、奉仕の精神を持って人や社会への貢献を目指すことが出来るようになる。</p> <p>学位プログラムにおける、「卒業研究Ⅰ」において、未知のものを追及したり、探求することを実践して、工業を学んだり、指導における思考法や判断力を身につける。</p>
	後期	<p>教職課程での学習および教育経験を振り返り、教職に関して継続して探求する態度を身に付ける。</p> <p>教育実習を振り返り、自分の授業技術や教師としての資質等について深く考える態度を身に付ける。また、教育や教師としてのあり方について常に探求する態度を身に付ける。「教育実践演習」において、4年間での履修状況を踏まえ、教師として必要な知識・技能を修得したことを確認する。さらに、学位プログラムにおける、「卒業研究Ⅱ」において、1年間のまとめを行うとともに、その成果を発表することで、自らの成果を表現することを身につける。</p>

様式第7号ウ (教諭)

<理工学部理工学科表面工学学系> (認定課程:高一種 工業)

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職論(チーム学校を含む)	理工学概論		健康スポーツ I	フレッシューズ 세미나
		2	B	教育原理			総合英語(オーラルコミュニケーション)	KGUキャリアデザイン入門 I
		2	E	教育心理学			情報基礎及び演習 I	KGUキャリアデザイン入門 II
	後期	2	D	学校の制度	情報基礎及び演習 II	教職実地体験(指導を含む)	憲法	フレッシューズプロジェクト
							健康スポーツ II	
						総合英語(リスニング)		
2年次	前期	2	F	特別支援教育	分析化学実験	道德教育の理論と実践		応用化学セミナー
		3	LN	生徒指導・進路指導の理論と方法	表面工学 I	防災教育		
					職業指導1			
	後期	3	J	特別活動の理論と実践	化学製図			
		3	I	総合的な学習の時間の指導法	無機化学実験			
		3	M	教育相談(カウンセリングを含む)	応用化学演習 I			
				職業指導2				
				表面工学 II				

3年次	前期	3	R	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	応用化学英語 I			表面工学研究基礎
		2	G	教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)	有機化学実験			
					表面工学演習			
					表面工学実験			
					機器分析実験			
	後期	4	/	教育実習指導1	物理化学実験			卒業研究基礎
		3	Q	教育の方法と技術	エレクトロニクス実装工学			
					応用化学英語 II			
					表面・実装工学			
					トライボロジー			
					電気化学			
					半導体材料工学			
	通年	1	A	工業科教育法				
	集中	/	/					表面工学企業実習B
4年次	前期	4	/	教育実習指導2				卒業研究 I
	後期	4	/	教職実践演習(中高)				卒業研究 II
	集中	4	/	教育実習1				

様式第7号ウ

<理工学部理工学科健康学系> (認定課程:高一種 工業)

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>教師として必要な基礎的能力を身に付ける。</p> <p>「フレッシューズセミナー」において、社会的ルールの遵守等を含む倫理的な精神、情報収集の方法やレポートの書き方等、大学での学習に必要なスキルを獲得する。「総合英語」、「情報基礎及び演習Ⅰ」等において、現代社会におけるコミュニケーションの基礎となる学力を高める。教職に関する科目においては、「教職論(チーム学校を含む)」において教師の意義や役割を理解し、教師を目指す意欲や目的を明確にする。また、「教育原理」、「教育心理学」等の科目を通じて教育の基礎理論を理解する。</p> <p>教科に関する科目としては、「健康・データ処理基礎Ⅰ」(学系必修)、「理工学概論」(必修)を履修して、健康学系における包括的な知識と情報処理の基本能力を養い、高等学校工業担当教諭として必要な基礎的知識を身に付ける。</p>
	後期	<p>教師として必要な基礎的能力を身に付けるとともに、各自の専門領域および工業科についての理解を深める。</p> <p>「憲法」等の共通科目を学び、日本国憲法の本質を含む幅広い教養を身に付ける。また、「総合英語」等において、現代社会におけるコミュニケーションの基礎となる学力をさらに高める。「キリスト教学」においては、教師として望まれる人格の陶冶に努めていく。教職に関する科目においては、「学校の制度」を学び、教育の基礎理論についてより一層理解する。</p> <p>教科に関する科目としては、「健康・データ処理基礎Ⅱ」(学系必修)や、「情報基礎及び演習Ⅱ」を履修して、高等学校工業担当教諭に不可欠な専門分野に関する基礎知識をさらに修得する。この他にも、「教職実地体験」や共通科目を学び、教員に必要とされる幅広い教養を身に付ける。</p>
2年次	前期	<p>教師として必要な基礎的能力を身に付けるとともに、教職に関する応用力を高める。</p> <p>教職に関する科目においては、「生徒指導・進路指導の理論と方法」を学び、生徒理解と支援の方法を身に付ける。また、「特別支援教育」を通して、多様性の時代に即した、様々な個性を有する生徒の目線にたった教育の方法を理解し、効果的な指導スキルを身に付ける。「職業指導Ⅰ」を通して職業指導(進路指導)の基本理念を理解する。</p> <p>教科に関する科目としては「生体データプログラミングⅠ」(学系必修)、「健康・データ管理学Ⅰ」、「ソフトウェア工学Ⅰ」、「人間・生体情報学Ⅰ」等を履修して、工業の教授のために不可欠な基礎学力と共に、高等学校工業担当教諭に不可欠な多面的、多角的な視野を身に付ける。またこの他にも、健康学系に関する専門科目を学ぶことで、専門分野に関する基礎知識を学ぶと共に、教員に必要とされる豊かな教養を身に付ける。</p>
	後期	<p>教師として必要な基礎的能力と教職に関する応用力を高める。</p> <p>教職に関する科目においては、「教育相談(カウンセリングを含む)」を学び、生徒理解と支援の方法を身に付ける。また、「特別活動の理論と実践」を通して教育課程(特別活動・LHR等)における指導計画を研究する。また、「総合的な学習の指導法」を通じて、子どもの心情や行動を理解する力を培う。</p> <p>教科に関する科目としては「生体データプログラミングⅡ」(学系必修)、「健康・データ管理学Ⅱ」、「情報工学」、「ソフトウェア工学Ⅱ」、「人間・生体情報学Ⅱ」、「職業指導Ⅱ」等の専門科目を学修し、高等学校工業担当教諭に不可欠な基礎学力を向上させると共に、多面的、多角的な視野を着実に身に付ける。またこの他、健康学系に関する専門科目を学ぶことで、教員に必要とされる教養および専門分野に関する基礎知識のさらなる習得を目指す。</p>

3年次	前期	<p>2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力をさらに高める。また、インターンシップなどを通して、工業と産業との結びつきを理解する。教職に関する科目においては、「教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)」を通して教育課程編成の基礎理論や学習指導要領が示す我が国の教育の方向性を捉える。また、「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」においては、実践的なICTスキルを身につける。「工業科教育法」(通年)においては、前期と後期にわたって、指導案の作成から展開までを具体的に学び、教員としての実践的指導力を身に付ける。種々の教育ボランティア活動を通して、人や社会に対して深い関心と共感的態度を高める。</p> <p>教科に関する科目としては「人工知能演習」、「生体データ解析Ⅰ」等の専門科目を学修し、高等学校工業担当教諭に必要とされる専門的な学力を向上させると共に、多面的、多角的な視野を着実に身に付ける。</p>
	後期	<p>2年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力をさらに高める。また、インターンシップなどを通して、工業と産業との結びつきを理解する。教職に関する科目として「教育の方法と技術」を通して教育の方法を理解し、効果的な指導スキルを身に付ける。さらに、「教育実習指導1」を通して、教育実習の意義・目的について理解する。模擬授業等を通して、教育実習に向けての授業力を身に付ける。種々の教育ボランティア活動を通して、人や社会に対して深い関心と共感的態度を高める。教科に関する科目としては「分散データベース論」、「生体データ解析Ⅱ」、「信号処理Ⅰ」等の専門科目を学修し、高等学校工業担当教諭に必要とされる専門的な学力を向上させると共に、多面的、多角的な視野を着実に身に付ける。</p>
4年次	前期	<p>3年次までに学んだ教育の理論、方法、専門的知識をもとに、教職に関する実践力・応用力の確認をする。</p> <p>「教育実習1」(集中)とともに、「教育実習指導2」を通して、これまでに学習したことを学校現場で実際に応用・検証することで、教育の目的や教職の意義等についてより深く理解する。また、実際に教育に携わり、生徒と関わる中で、奉仕の精神を持って人や社会への貢献を目指すことが出来る。教科に関する科目としては「信号処理Ⅱ」の専門科目を学修する。</p> <p>さらに、「卒業研究Ⅰ」等を通して専門分野に関する課題に関して解決を図ることができるようにさせる。</p>
	後期	<p>教職課程での学習および教育経験を振り返り、教職に関して継続して探求する態度を身に付ける。</p> <p>教育実習を振り返り、「教職実践演習」などを通して自分の授業技術や教師としての資質等について深く考える態度を身に付ける。また、教育や教師としてのあり方について常に探求する態度を身に付ける。</p> <p>さらに、「卒業研究Ⅱ」等を通して、専門分野に関して自ら深く考究することができ、解説策を表現できるようにする。</p>

様式第7号ウ（教諭）

<理工学部理工学科健康学系>（認定課程：高一種 工業）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称						
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等			教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第6条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期	科目区分	必要事項	科目名称				
1年次	前期	2	C	教職論(チーム学校を含む)	理工学概論		健康スポーツⅠ	フレッシュヤーズ 세미나
		2	B	教育原理	健康・データ処理基礎Ⅰ		総合英語(オーラルコミュニケーション)	KGUキャリアデザイン入門Ⅰ
		2	E	教育心理学			情報基礎及び演習Ⅰ	KGUキャリアデザイン入門Ⅱ
	後期	2	D	学校の制度	健康・データ処理基礎Ⅱ	教職実地体験(指導を含む)	憲法	フレッシュヤーズプロジェクト
					情報基礎及び演習Ⅱ		健康スポーツⅡ	キリスト教学(技術者としての倫理)
							総合英語(リスニング)	
2年次	前期	2	F	特別支援教育	生体データプログラミングⅠ			
		3	LN	生徒指導・進路指導の理論と方法	健康・データ管理学Ⅰ			
					ソフトウェア工学Ⅰ			
					人間・生体情報学Ⅰ			
					職業指導1			
	後期	3	J	特別活動の理論と実践	生体データプログラミングⅡ			
		3	I	総合的な学習の時間の指導法	健康・データ管理学Ⅱ			
		3	M	教育相談(カウンセリングを含む)	情報工学			
					ソフトウェア工学Ⅱ			
					人間・生体情報学Ⅱ			
				職業指導2				

3年次	前期	3	R	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	人工知能演習	道徳教育の理論と実践		
		2	G	教育課程論(カリキュラムマネジメントを含む)	生体データ解析 I	防災教育		
	後期	4		教育実習指導1	分散データベース論			卒業研究基礎
		3	Q	教育の方法と技術	生体データ解析 II			
					信号処理 I			
	通年	1	A	工業科教育法				
4年次	前期	4		教育実習指導2	信号処理 II			卒業研究 I
	後期	4		教職実践演習(中高)				卒業研究 II
	集中	4		教育実習1				